

令和7年度第2回学校運営協議会 議事録

- 1 会議名 静岡県立熱海高等学校学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和7年10月25日(土) 13:25 ~ 15:50
- 3 開催場所 静岡県立熱海高等学校 会議室
- 4 参加者 学校運営協議会委員4名（内リモート1名）（欠席者2名）、管理職4名

5 会議の概要

（1）文化祭に取り組む生徒の様子について

委員A：生徒数が少ない中、工夫している。模擬店や体験コーナーなどユニークでバリエーションが増えている。生徒の雰囲気が明るく、和やかでよい。生徒数が少ないので気になる。

委員B：数年前から続けて見ているが、学校紹介のCMがよかったです。もっと前からやればよかつたと思う。これがきっかけで入学生が増えてくれるといいと思う。生徒は楽しそうに参加していた。卒業生が協力してくれたキッチンカーがよかったです。

委員C：生徒が自分たちでやりたいことを考えてやっているのが楽しそうでよかったです。卒業生が関わったキッチンカーがよかったです。今年の内容を来年の文化祭に向けてより早く告知するといいと思う

（2）学校の近況について

管理職：教務企画グループより

出欠席について、各学年とも6月の時より増加している。最近、体調を崩す生徒が増えている。在籍数の少ない1年生（24人）の欠席数が在籍数の多い2年生（35人）と述べ欠席数が同じになっている。人数の割に少し多い。

本の貸し出し数が年々増加している。今現在で2年前の2倍を超えており、図書委員による本の紹介や展示物を作成した効果と考えられる。今後、日本赤十字社の支援により書籍を購入する予定である。

管理職：キャリア教育推進グループより

人数としては減少しているが、地元志向の割合が高くなっている。今年度は1次募集で大手企業にチャレンジする生徒が多くなった。反面、ここ数年続いている一時応募での内定率100%は達成できなかった。本年度から求人票を直接PDFデータで送付することが可能となったので県外の求人受付数が大幅に増加した。進学者については大学、短大への進学希望者がいない状況である。進学希望者でも家庭の経済状況の厳しさから進学を断念し、就職へ切り替えた生徒も複数名いた。

：生徒指導対策グループより

生徒は概ね落ち着いて生活している。生徒間の小さなトラブルはあるが、生徒一人ひとりに配慮しながら対応している。

陸上部がやり投げで県大会へ、ヨット部は東海大会へ、バドミントン部1年生男子が初

心者の部で県大会へ出場した。

朝食アンケートの結果は目標の朝食摂取率 80%以上に少し届かなかった。食べなかつた理由は食べるとおなかが痛くなることや、食欲がない、めんどうくさい、普段から食べない等であった。

管理職：朝食摂取率が低いことは熱海市小・中学校を含め全体の問題として取り上げられている。

(3) 「行きたい学校づくり」について

管理職：

・2年生「総合的な探究の時間」CM動画作成について

学校広報用のCM動画を制作・発信するために、2年生が総合的な探究の時間の中で3年生との分野活動と並行して取り組んでいる。外部講師の指導のもと、中学生の視点に立ったCM動画を作成し、広報活動の質を高めるとともに地域と学校の連携を強化した。完成した動画は今後、株式会社富士急マリンリゾート様、三島信用金庫様に御協力をいただき、熱海港待合室のデジタルサイネージ、三島信用金庫 熱海市、伊東市の支店のロビーにおけるデジタルサイネージにて放映予定である。

・2年生「総合的な探究の時間」・3年生「キャリアマネジメント」

リノベーション分野「花のある学校づくり」について

「花のある学校づくり」の取組みは「生徒昇降口に植物があれば心が和む」という生徒の提案から始まった。JA富士伊豆様や、株式会社マキバ様等地域の方々にアドバイスを頂きながら、生徒昇降口にプランターを設置し季節ごとの植物を植え、生徒が水やりなどの養生を行っている。今後はプラスチック製でない「地球環境にやさしいプランター製作」や昨年うまくいかなかった「グリーンカーテン」に取組む予定である。

スポーツ・アウトドア分野「テント／キャンプ」について

熱海の海や山などの豊かな自然環境を活かし生涯を通して取り組むことができるスポーツやアウトドア活動に取り組むことにより、未知の出来事に対して試行錯誤しながら挑戦する探究心や知識や技能を身につける。また、生徒が地域の自然を理解し、地域の魅力発信したり災害対応（地域協力）する力を養う。

・観光ビジネスコース「特色のある取り組み」について

観光ビジネスコースでは観光に関する基礎的な知識とビジネスマナーを習得し、地域に貢献することのできる人材の育成を目指している、3年生が6月に熱海市、伊東市のホテルや旅館で実習を行っている。また、富士急マリンリゾート様との連携により、初島での「レモンの木プロジェクト」を行っており、レモンの木の植樹やレモンに関する商品開発、施設内のオブジェクトのデザインなどに取り組んでいる。

・福祉コース「特色のある取り組み」について

熱海市、伊東市での高齢化率は高く、また県外から高齢者施設へ入居する方も多い一方、介護に従事する人材が不足している。このような状況の中で地域に必要とされる人材の育成のため、福祉コースが設置されている。福祉コースにおいては2年間の授業の履修と校内で

行われる試験に合格することで「介護職員初任者研修」の資格を取得することができる。2年生の11月には熱海駅周辺のバリアフリーの整備状況を確認するため、校外学習を行っている。3年生の6月に施設において1週間の実習を行い、実践的な経験を積んでいる。本年度はバリアフリー調査に加えて広野MCビルにて地域包括ケアについて研修を実施する。

(4) 意見交換「小規模校としての熱海高校が目指す方向性について」

「地域との連携について」

委員A：それぞれのコースの生徒は希望通りのところへ行けているのか。ボランティア部が町の落書き消しを手伝ってくれている。大きな落書きは消せている。落書きで町が汚れないと犯罪につながるので、熱海高校はなくてはならない地元の高校である。

管理職：福祉コースは待遇面で躊躇してしまう。収入面で自立することに不安があり志望先を変えてしまうので、待遇が改善されれば希望の職業に就くことができると思う。

委員A：観光の仕事も人気がない。仕事との関わりの中で仕事を知ってもらえるとよいと思う。最後には給料の話になってしまう。

管理職：何年か前、熱海高校は英語科をなくし観光ビジネスコースと福祉コースをつくった。高校在学中に資格を取れるようにすることや、栄養や食文化について学ぶ機会を増やすことを考えている。

委員B：福祉コースで取れる資格をもっとアピールするとよいと思う。

委員B：地域企業からの協賛金を募るのがよいと思う。少人数になればなるほど地元からの期待が高まる。学校のいろいろな活動や学校の運営に協賛金を出してもらえるとよい。熱海は（潤っている街なので）協賛金が集まる。県の高校で宣伝や広報についてのアイデアを共有できるとよい。

委員D：企業からの協賛金をつくる考えはとてもいいと思う。協賛金を花火以外のところにも活かせれば将来に繋がると思う。同窓会もあるが、それとは別に卒業生からも出してもらうとよい。“熱海高校サポーターズ”として。

(5) その他

管理職：次回の第3回の日程について。2月上旬あたりで考えている。